

# バイ資源の現状に関する調査

( 浅海増殖試験 )

道根 淳

## 1. 研究目的

バイ資源は全国的に見ても有機スズが原因と考えられている雌の雄化（インボセックス）により、資源が大きく減少しているとされるが、本県でも漁獲が激減している。そのため、バイ資源の現状とインボセックスの状況を把握し、種苗生産や移植放流など、バイ資源の増大を図るための基礎資料とする。

## 2. 研究方法

### (1) 漁獲量および漁獲物調査

県内でバイがまとまって漁獲される益田市漁協、江津漁協の漁獲動向を調査した。さらに、漁獲物の買い取り調査を実施し、漁獲物の殻長組成の把握、インボセックスの出現状況について調査した。

## 3. 研究結果

### (1) 漁獲動向

益田市漁協における最近の漁獲動向は、平成7～9年にかけて実施した禁漁以降増加傾向にあり、平成16年の漁獲量は5トン、漁獲金額は740万円であった。また、1隻当たりの漁獲量は250kgで、平成3年以降、最高の水揚げとなった。

江津漁協における平成16年の漁獲量は1.6トンで、平成10年以降最高の水揚げとなった前年を0.4トン下回った。これは、前漁期、大型貝が漁獲された敬川沖での漁獲が低調に推移したことが影響しているが、漁獲量としては平成15年に次ぐ水揚げとなった。

### (2) 漁獲物組成およびインボセックスの出現状況

益田市漁協における漁獲物の殻長組成を見ると、殻長30mm～78mmのものが漁獲され、漁獲の主体は殻長60mm～70mmサイズであり、美保湾の成長<sup>1)</sup>と照らし合せると3歳と考えられた。また、今夏満1歳となる殻長30mm～40mmサイズ<sup>1)</sup>が漁獲されており、益田市沖における本種の再生産、新規加入が比較的安定していると推察された。

江津漁協における漁獲物の殻長組成を見ると、殻長40mm～70mmのものが漁獲され、漁獲の主体は殻長48mm～57mmサイズであり、2歳<sup>1)</sup>と考えられた。漁獲物中に殻長40mm以下の小型のバイが見られなかったことから、江津市沖の本種の再生産、新規加入状況を判断することができなかった。

インボセックスの出現状況は、益田市漁協の漁獲物からは56個体中1個体（出現率1.8%）のみ確認された。また、江津漁協の漁獲物からは確認されなかった。

## 4. 研究成果

- 漁場環境の改善、本種の再生産が確認されたことにより、平成17年度から3カ年間かけて、出雲市多伎地先に親貝の移植放流を実施し、本種資源の回復を目指した取り組みを行う。

## 5. 文献

- 1) 梶川晃. バイ (*Balytonia japonica* Reeve) の増養殖に関する研究. 鳥取水試報告 1976; 18: 1-84.